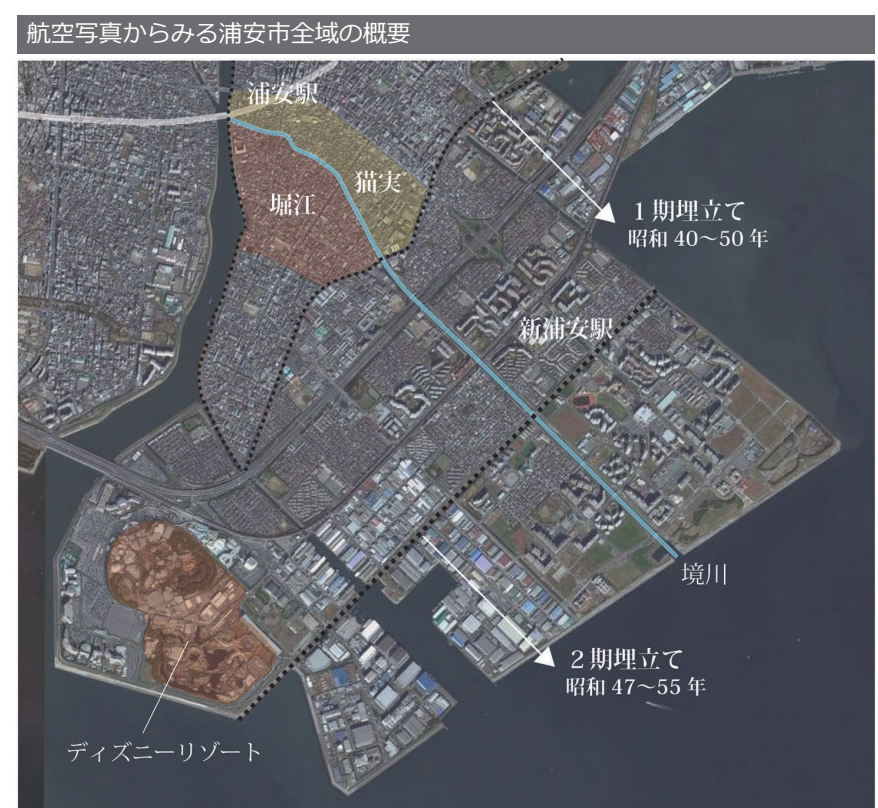




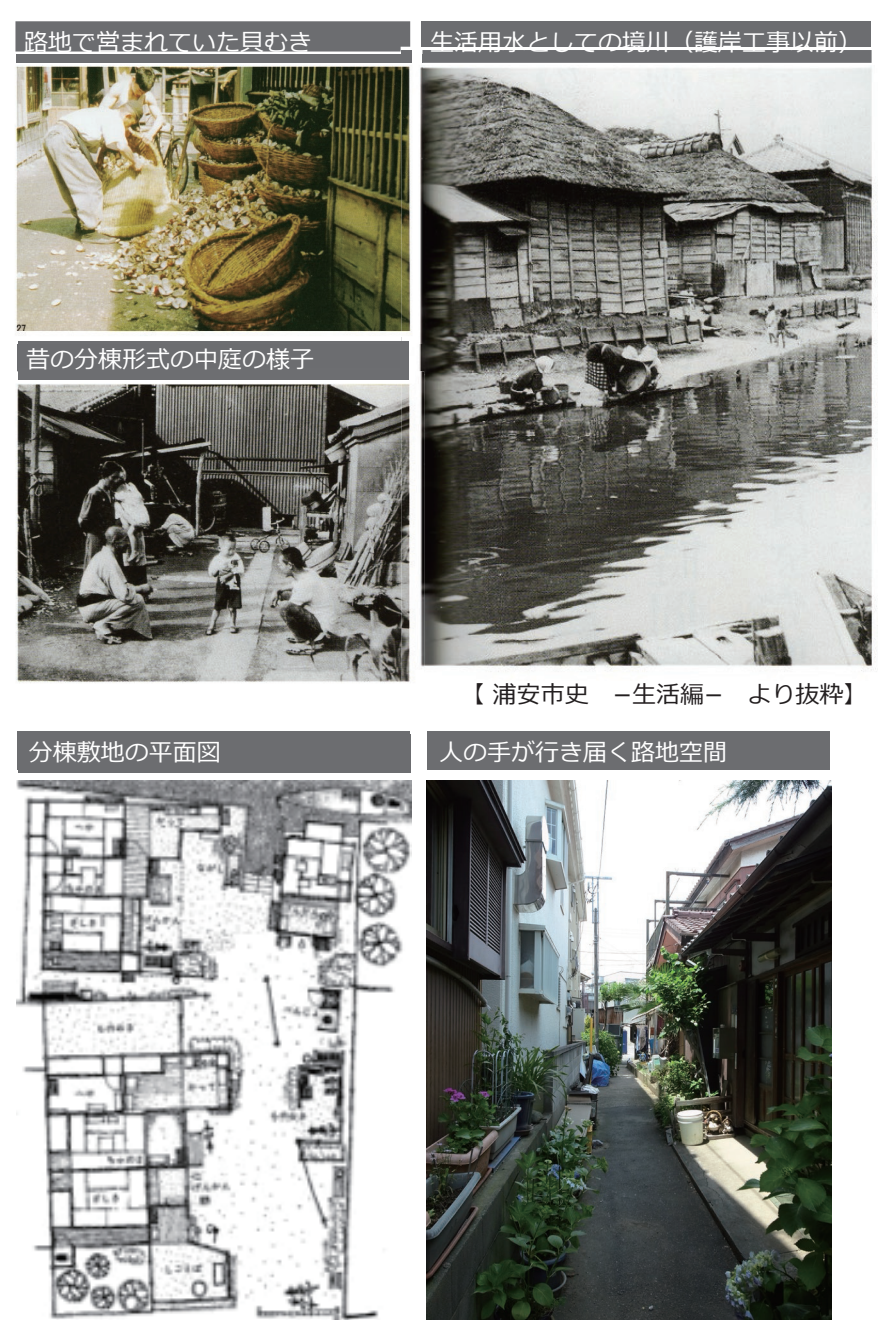
**MEMBERS**  
 Aya KUBOTA (prof.)  
 Koichi Ikeda (research fellow)  
 Hiroo Tanaka (research fellow)  
 Chihiro Morikawa (M2)  
 Misa LEE (M2)  
 Taiga Sunazuka (M1)

## 漁村時代を語る路地の町 浦安

URAYASU,  
USED TO BE A FISHERY CITY



▲浦安市は、元町・中町（第1期埋立て）・新町（第2期埋立て）の3つ地域がある。その中でも浦安PJの主な対象敷地は、元町にある猫実・堀江地区。



浦安の中でも古くからの集落であった猫実・堀江地区は、漁師町として栄えた町だった。地域の真ん中に流れる境川にべが舟がつけられ、男性はそこから海へ出て漁を、女性・子どもは家の前の路地や近くの作業場で貝むき / 海苔すき作業をして生計を立てていた。

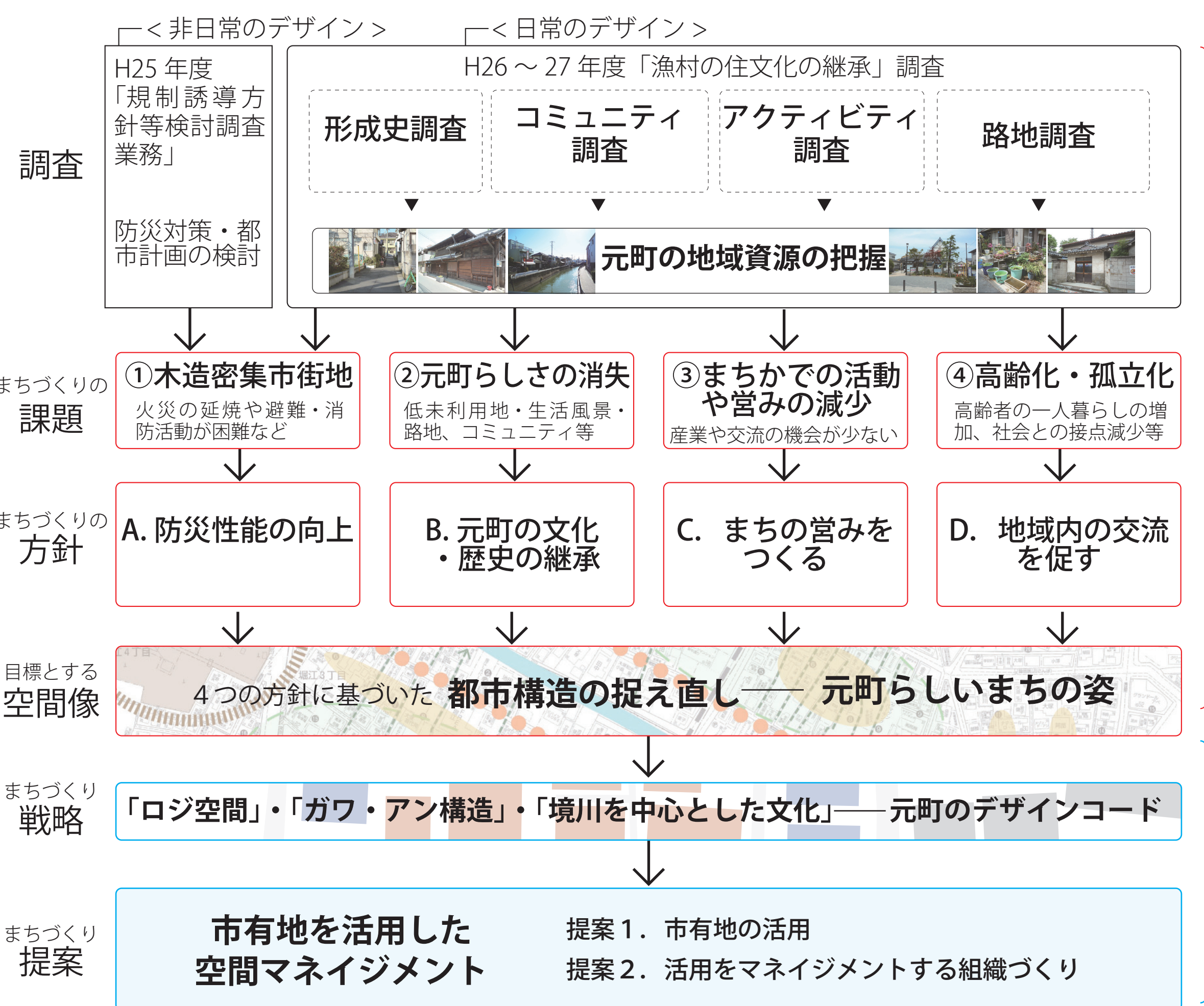
しかし、1949年のキティ台風で多大なる被害を被ったことが境川の護岸整備へと踏み込むきっかけとなった。さらに1958年の江戸川工場悪水放流事件を契機に漁業不振に陥り、1971年に漁業権を全面放棄後、東京への通勤圏という立地の良さもあって現在は住宅が増え、ベッドタウンの様相を呈している。なお当時の地割りは今もほとんど変わらない形態のまま残っており、木造密集市街地を形成している。



首都直下地震が危ぶまれている中で、同時多発火災等の突発性リスクを軽減させるための防災面の向上は、浦安市においても早急に対処すべき課題として考えられている。2014年には一部区画整理事業が完了し、地域の真ん中の道路が拡幅された。これにより以前に比べ災害危険度は減ったとはいえ、かつてのような外部空間も含めて生活が成り立つ暮らし方は薄れ、個々の生活が内に閉じていき均質化が進んでいる。このような進行性リスクからも目を背けず、防災上の課題にも対応できるような木密地域のあり方を模索していく。

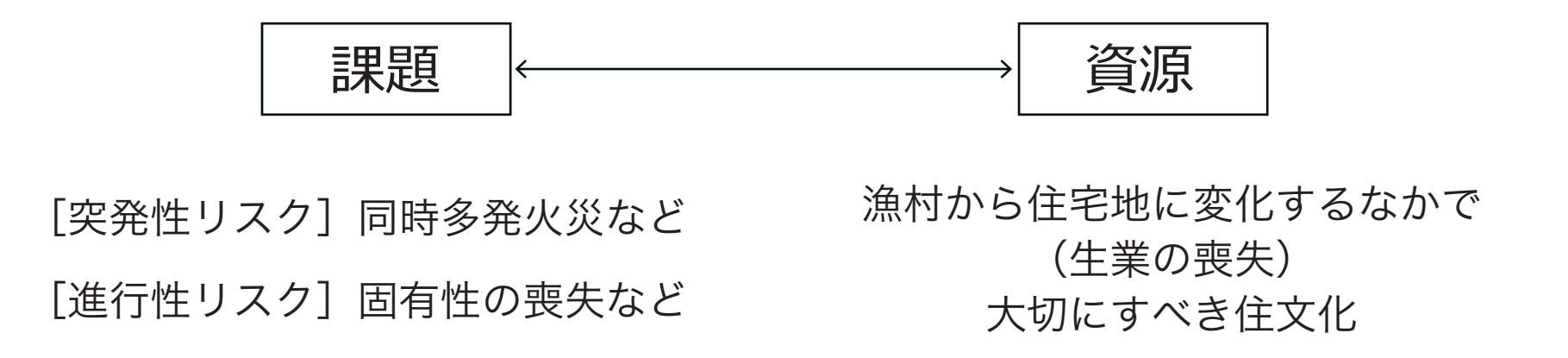
## 調査研究の全体像

PERSPECTIVE OF RESEARCH

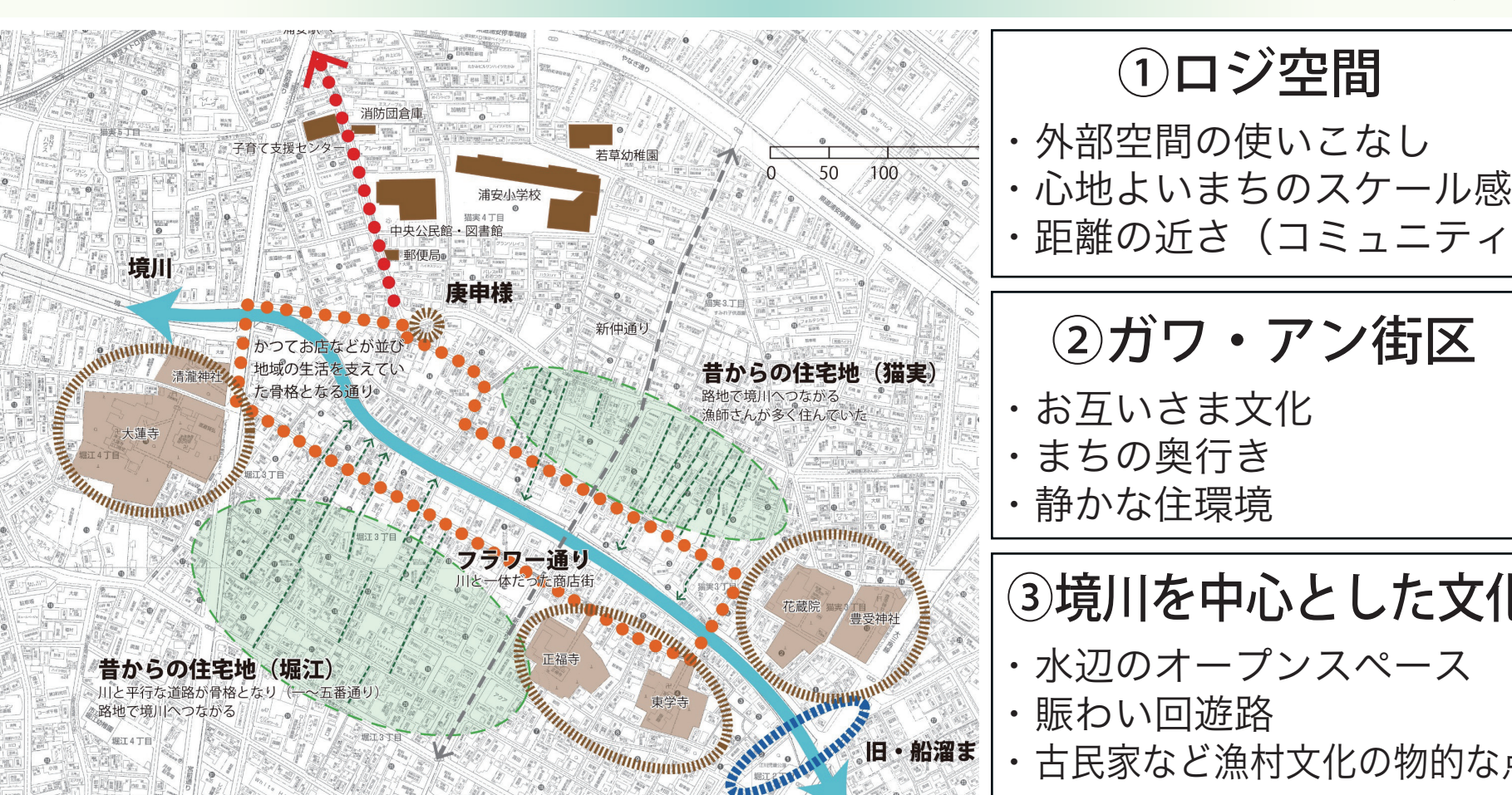


## 問題意識

AWARENESS OF THE ISSUES

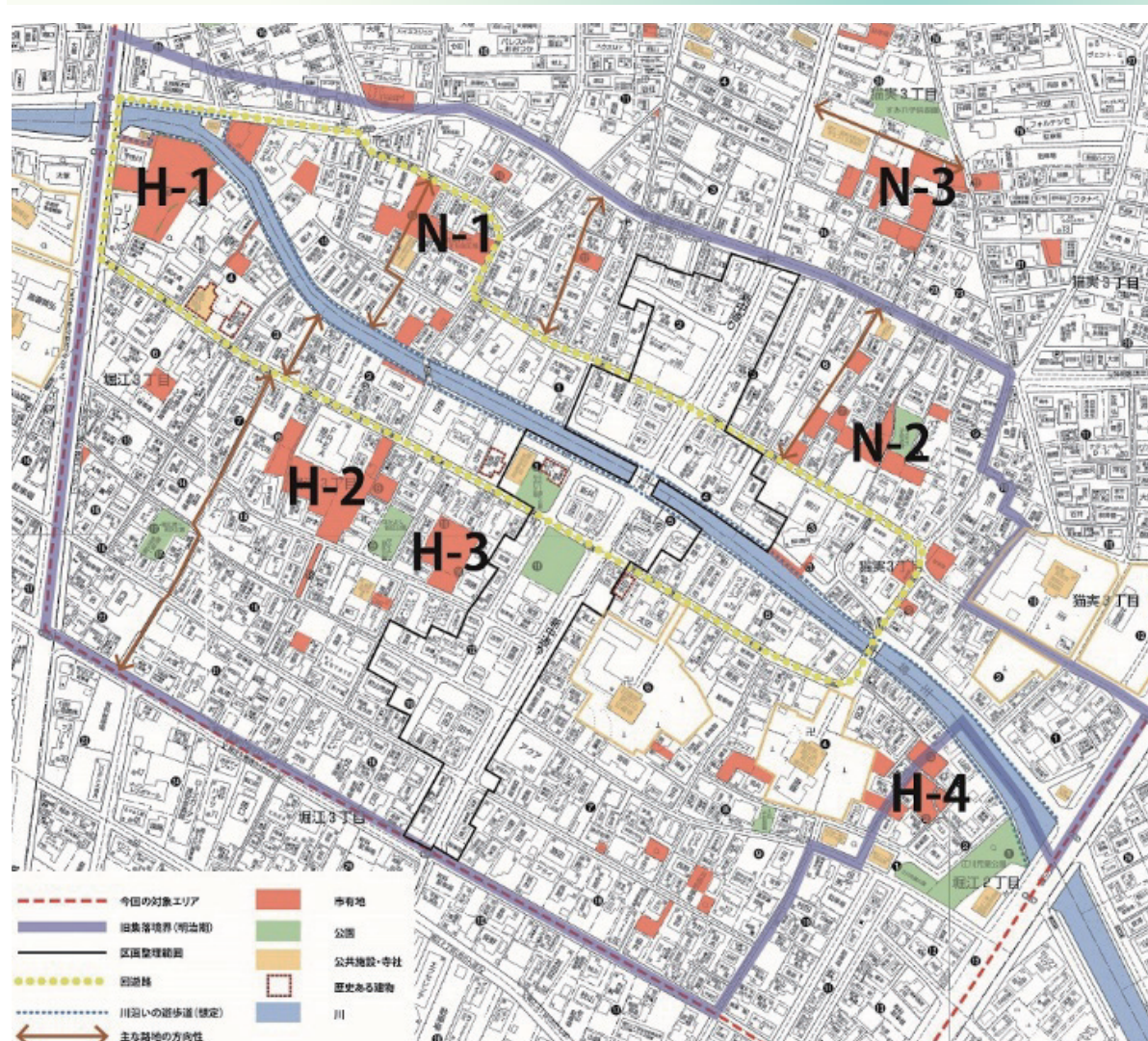


## 元町住文化を継承するデザインコード



## 市有地の分布

DISTRIBUTION OF CITY-OWNED LANDS



アン街区は接道していないため、個別の建替えが不可となり、市有地となる。

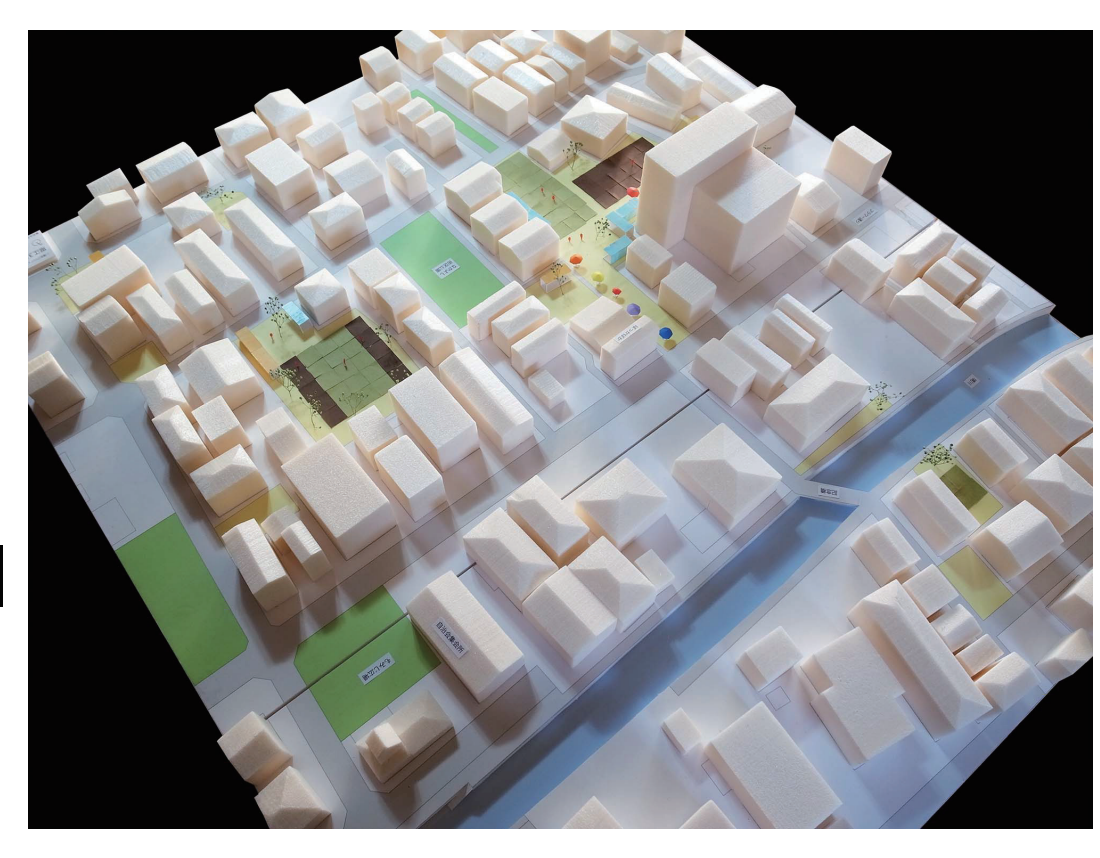
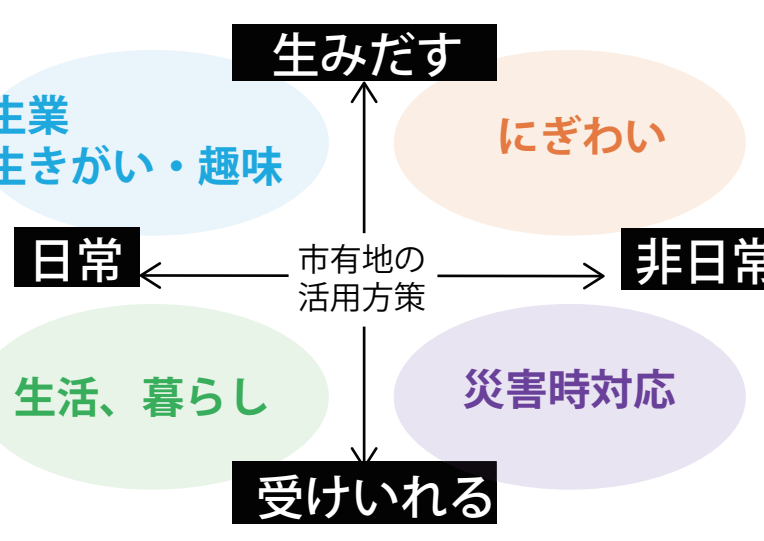
**市街地環境の向上に資する市有地**

- 地域の防災性能の向上（空地率、通り抜け道など）
- 住環境の向上（採光、通風など）
- 住民等が利用可能な場としての地域資源

## 市有地を活用した空間マネジメント

MANAGEMENT OF USING CITY-OWNED LANDS EFFECTIVELY

市有地の空地である特性を活かしながら、住文化を活かした新しい活動を生み出す場として活用



## 浦安プロジェクトのこれから

- 提案の実現に向けて
- 浦安三社例大祭（6/17～19）調査
  - 提案を元に地域住民とのヒアリング、ワークショップ
  - まちづくりコンセプトブックの作成
  - 仮設UDC（市有地マネジメント）の社会実験 = 空き家・空き地などの活用